

No.210

Summer | August 2021

SAISEIKAI  
KYOTO  
HOSPITAL  
kyoto.saiseikai.or.jp



社会福祉法人 恩賜財団 済生会とは

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44(1911)年に設立しました。100年以上にわたる活動をふまえ、今、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約64,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を 済(すく)う
- 医療で地域の 生(いのち)を守る
- 医療と福祉、 会を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇…悩むすべてのいのちの虹になりたい。済生会はそう願って、いのちに寄り添い続けます。

総裁：秋篠宮皇嗣殿下 理事長：炭谷 茂

なでしこ紋章の由来



初代総裁・伏見宮貞愛(ふしみのみやさだなる)親王殿下は、明治45年、済生会の事業の精神を、野に咲く撫子(なでしこ)に託して次のように歌にお詠みになりました。

**露にふす 末野の小草 いかにと あさ夕かかる わがころかな**

野の果てで、露に打たれてしおれるナadeshikoのように、生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだろうか、いつも気にかけてしかたがない

この歌にちなんで、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花葉に露をあしらったものを、大正1年以來、済生会の紋章としています。

saiseikai.or.jp



豆腐と納豆は逆じゃないのか…と、学生の頃、商店街の昔ながらの豆腐屋さんの前で人生最大の発見をしたとワクワクしたことがあります。大豆を「腐らせる(発酵)」のは納豆で、豆乳を四角い型に「納め」て固めるのは豆腐です。きれいな水がないと作れないお豆腐に「腐」なんて言葉は似合わない。これは中国かどこから、日本に納豆と豆腐が伝わった時に入れ替わってしまったのではないかという仮説をたて、調査を開始しました。

実は、豆腐発祥の地、中国でも豆腐は「豆腐」です。奈良時代に中国から伝わったなど諸説あります。中国では古くから「腐」はブヨブヨと柔らかいものという意味があり、豆腐はつまり「柔らかい豆」ということとなります。一方、納豆は、弥生時代頃から食べられていた可能性があるようですが、その歴史は謎です。その名の由来については「寺の納所(台所)で作られたので納豆というようになった」と江戸時代の『本朝食鑑(ほんちようしょくかがみ)』には書かれているそうです。

つまり柔らかい豆の「豆腐」、納所で作っていたから「納豆」と、逆ではないことがわかったので、学生時代の私の大発見は幻に終わったのです。(M)

SAISEIKAI KYOTO HOSPITAL

◎理念

思いやりの心・質の高い医療・明るい職場  
～医療を通して地域に貢献～

◎基本方針

- 患者さん本位の良質で安全・適切な医療の提供
- 地域に応える連携・救急・災害医療・健診と地域包括ケアの推進
- 多職種によるチーム医療と協働の推進
- 人材育成・確保、勤務環境改善と働き方改革の推進
- 経営改善と新築移転事業の遂行



◎受診案内

診療受付時間 8:50～11:00(予約診療の方は17時まで)  
診療開始時間 9:00から  
休診日 土・日・祝日・年末年始  
救急受付 24時間可能な限り対応  
(ご連絡のうえ来院してください。TEL 075-955-0111)

受診の際は必ず手帳をお忘れなく

◎交通案内

- 駐車場あり(約160台)
- 阪急京都線「長岡天神駅」下車、西出口よりバスまたは徒歩15分
  - JR東海道線「長岡京駅」下車、西出口よりバスまたはタクシー
  - 阪急バス：
    - ・JR「長岡京駅」より阪急「長岡天神」経由
      - ⑦美竹台住宅前経由
      - ⑧奥海印寺(循環)済生会回り
      - ⑨奥海印寺(循環)梅ヶ丘回り
    - 各バスで「済生会病院」下車
    - ・その他、他系統バス「東台」「太鼓山」下車、徒歩5分



社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院

〒617-0814 京都府長岡京市今里南平尾8番地 電話 075-955-0111(代表) FAX 075-954-8255 https://kyoto.saiseikai.or.jp/



社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院

# 渋沢栄一と済生会

新一万円札にも描かれ、大河ドラマ「青天を衝け」の主人公でもある渋沢栄一。今回は、渋沢栄一と済生会とのかわりについてご紹介します！



新一万円券のイメージ

うに命じたとされています。済生会設立直後から20年間、当会の顧問と評議員を務めました。

## 社会事業家としての顔

窪田は「渋沢の非常に強い慈善心と、ただ人のため国家のために善いことをしたいという渋沢の誠心誠意に人々が喜んで寄付金に応じた。済生会の「施薬救療」を大成するのに必要な資源を民間から集め基礎を確立したのは渋沢子爵の力によるものである。世界広しとも救療事業のためにロックフェラーやカーネギーのように一人ではなく多数の同志者が一度に数千万円の醸出した例はない」と記し、渋沢の社会事業活動への向き合い方を「同じ慈善行為を行うにも、世界の賞賛を博したい、優越感を味わいたいという動機がなく、そのような点において渋沢子爵の心境人格はほとんど無類と言ってよかった。善いことでさえあれば自分の思いついたことでも、他人から勧められたことでも同じように力を十二分にいれて、その事業が出来さえすれば同じように結構だと満足されていた」と紹介しています。

渋沢の「米もすなわち薬のひとつであり、衣類もまた病気の原因になるため、この機会に桂総理大臣をはじめ政府当局者が大いに力を尽くし、また世の資産家たちが出資をすれば、財団法人を組織し貧困者を救済することもできると信じている。万が一、せっかくの尊い思召しを単に施薬救療のみで止めるにいたるならば、明治天皇の思うところを有効に貫徹しかねるかもしれないだろう」との思いもまた、済生会が創立以来110年、医療と福祉を全国で展開し続けるための礎となっています。

## 済生会の創立

済生会は全国に81病院、診療所や福祉施設をあわせると399施設、約64000人の職員が働く日本最大の社会福祉法人です。1911(明治44)年、明治天皇は時の総理大臣 桂太郎を召されて、日露戦争後の社会不安のなかで「生活苦で医療を受けることができずに困っている人々を施薬救療によって救おう」という「済生勅語」を発し、お手元金150万円(当時)を下賜されました。済生会はこの明治天皇の済生勅語に基づき、官民からの寄付金によって設立されました。



渋沢栄一

## 済生会にとっての渋沢栄一

「済生会創立の最大の功労者は故桂公爵、故平田伯爵(平田東助 内務大臣)、故澁澤栄一子爵とである」と1938(昭和13)年1月の財団機関誌「済生」に法学博士 窪田静太郎が記しています。渋沢は「醸金にはお前が出て一つ尽力してくれ」と桂から頼まれ、「済生会創立時に桂公が一にも二にも『渋沢さん渋沢さん』と私を大切にしてくださいただけは事実である」と後に語るほど済生会の創立には渋沢が不可欠な存在でした。渋沢はどんな社会事業が緊急を要するのか調査し、当時の社会情勢において施薬救療が必要であることを痛感していたようで、済生会創立の寄付金募集の世話人として尽力し2千数百万円を集めました。また、渋沢は渋沢家同族会議において済生会に10万円の寄付をするために各家に節約するよ

【参考】  
・公益財団法人渋沢栄一記念財団ウェブサイト デジタル版「実験論語処世談」(7)/渋沢栄一 4.済生会創立当時の桂公 (https://eiichi.shibusawa.or.jp/features/jikkenrongo/JR007004.html)  
・公益財団法人渋沢栄一記念財団ウェブサイト 竜門雑誌 第二七四号・第一八一―二二頁 明治四年三月 恩賜奉答の途(青淵先生) (https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryoyo/digital/main/index.php?DK310009k\_text)  
・済生会機関誌「済生」昭和13年1月号「七周忌にあたり故澁澤栄一子爵を憶ふ」窪田静太郎

【画像出典】  
・澁澤栄一 国立国会図書館ウェブサイトからの転載  
・新一万円券のイメージ 財務省ウェブサイトhttps://www.mof.go.jp/policy/currency/bill/20190409.html  
・済生会本部全景 昭和11年12月発行「済生会志」より

## INFORMATION

### 現病院で最後の常盤例祭

当院の開設記念日である7月2日に屋上に祀られている常盤神社の例祭を長岡天満宮宮司、病院関係者により執り行いました。昭和4年7月2日、京都市北区に済生会京都府病院が開設されて以来、患者さんの病気の回復と病院の無事を祈念して年1回執り行われています。

当日は雨の予報でしたが、この時間は空も雨を降らすのを待っていてくれたようでした。



### LINE 公式で情報発信しています

2021年2月に当院のLINE公式アカウントを開設しました。病院のいろいろなニュースや新病院について配信しています。お友達登録をしていただくとスマホに情報が届きます。

### QRコードでLINEの友だちを追加

LINEの「友だち追加」から「QRコード」を選択してください。読み取り画面でQRコードを読み取り、「済生会京都府病院」を友だち登録してください。



## 旬の食材と栄養

### 山科なす

山科なすは京都市山科地区で古くから栽培されている「京の伝統野菜」です。ふっくらとした卵型をした中ナスで、果皮が大変薄く、肉質が柔らかいのが特徴です。近年は木津川市や大山崎町などで生産されています。

歯触りがよく、熱を加えると旨味が引き立ちます。ナスの皮にはナスニンというポリフェノールの一種が含まれ、発がんを抑制する抗酸化作用があり、眼精疲労にも効果があると言われています。そのため、ナスを調理するときは皮ごと使用することがおススメです。水分と糖質が多く、カリウムやリンなどのミネラルも豊富です。カリウムは血圧の上昇を抑える作用があるので、生活習慣病の予防にも効果が期待できます。京都の小学校では給食に京のおばんざい「にしんなす」が提供されています。おいしさを引き立て合う食べ物と合わせを京都では「出合いもん」といい、脂肪の多いにしんと油をよく吸収するなすを一緒に煮た「にしんなす」もそのひとつです。





知  
り  
た  
か  
っ  
た  
体  
の  
こ  
と  
。

特集

人知れず  
頑張る  
あなたへ

新型コロナウイルスの感染拡大から地域医療を守るために  
人知れず頑張る人たちへのエールをこめた絵本を作った医師。  
その横顔にクローズアップしました。

診療部長・総合診療内科部長・感染制御部長

中島 智樹

#### — 普段はどんな仕事をしていますか？

私は普段、総合診療内科部長として内科疾患の診療にあたるとともに、感染制御部の部長としても院内感染の予防や対策に尽力しています。院内感染が起きないように徹底した職員への感染対策指導、病棟や外来での診療環境の整備、職員の院外での行動に関する細かい指導などが必要です。これらを日々継続していくことがいかに難しいか、もっと広く言えば当たり前のことを維持し続けることがいかに困難かを絶えず実感し、どちらかといえば病院のなかで人知れずコツコツと活動している毎日です。実は京なでしこの「歴史好き内科医の歴史断」のコーナーを担当したのも私です。

#### — 絵本を作ったと聞きましたが… きっかけはなんですか？

社会に新型コロナウイルスの感染が広がり始めた2020年の初めは、世間でさまざまな噂がとびかいました。院長のリーダーシップと感染制御部の協力、そして職員の努力もあり院内感染は起きて

いませんでしたが、当院も他の病院と同様、患者さんが自然と病院の受診をひかえる傾向がみられ、外来患者さんや入院患者さんが減少しました。その時に、ちょうどある出版社が一般人を対象にした作品コンクールで原稿を募集しているのを目にしました。私は病院では医師として働いていますが、家庭では一児の父としての日々を送っています。子どもが幼かった頃に寝かしつけのために即興で作ったお話のなかに、自分のお気に入りがあったのでコンクールに出してみようと思いました。コンクールに応募した後に「絵本を出版してはどうか」という提案をいただきました。これが絵本作りの始まりでした。

#### — どんなお話ですか？

リス、キリン、ゾウの動物たちが繰り広げるお話です。ゾウさんは、キリンさんの作った家に入ったリスさんが、海を見てはしゃいでいる姿を見て、自分もリスさんに喜んでもらえるような高い家を作りたい、自分も一緒に海をみたいという一心で家を作りはじめます。リスさんとキリンさんに忘れら

れたのではと思うこともありましたが、最後には夢がかない、みんなで海を見ることができて、これまで以上の深いぎずなが生まれた、というお話です。



ゾウさんは、コツコツと努力をして得をしたわけではありません。ですが、ゾウさんはみんなに喜んでもらえて、友達とのきずなも深まり、何にも変えがたい幸せな気持ちになったはず。私たちの仕事もそれに似ている面がありませんか？

「リスさんにきれいな海を見てもらって喜んでほしい、そして「自分も一緒にそれを見て喜びたい」、という気持ちは、「病と闘う患者さんに元気になってほしい」、そして「元気になった患者さんと一緒に喜びたい」、という気持ちに通じるものがあると思います。そしてその気持ちが、医療従事者の原点であると私は思ってきました。しかし今回の新型コロナウイルスは、医療従事者にとってその気持ちをくじけさせるほどのすさまじい病魔でした。

—— 当院も感染対策や地域医療を守るための取り組みに追われましたね。

未知の感染症だけに、診療中に自分も感染しないだろうかと不安を抱く職員や、通常とは違う職場環境にとまどう職員、さらに当院では初期に感染者が出たことが報道されたことで世間からの風当たりを強く感じる職員もいるなかで、新型コロナウイルスと向き合っていかなければなりません。私も

感染制御部の部長として、院内の新型コロナウイルス対策や診療に、スタッフと一緒に取り組んできました。

こんな絵本を作るつもりだとスタッフに伝えたところ、コツコツと頑張るゾウさんの姿が自分たちの姿と重なり共感してくれました。そこで私はこの絵本がみんなの励みになるように、絵本のゲラ刷りをスタッフに見てもらい、一緒に絵本の帯の文章を考えようと提案しました。帯に書かれた「自分の知らないところで頑張ってくれている仲間がいる。あなたのまわりにこんなゾウさんはいますか？」という文章はそうにしてできたものです。

—— このお話を通して誰に何を伝えたかったですか？

新型コロナウイルスは医療現場に多くの負担をかけることになりましたが、今考えると、新型コロナウイルスを通じて、職員全員の感染症に対する意識が変わりました。感染制御部にも協力的な雰囲気形成され、それが病院としての結束を強めたように感じます。少し感染者数は減ったものの、まだまだ安心できない状況ですが、ワクチン接種者がどんどん増えて、医療現場でも、絵本のなかで

リスさんとキリンさんとゾウさんが見た青くて広々としたきれいな海を見られる日がくることを信じて頑張りたいと思います。

全国でゾウさんのように人知れず頑張る医療従事者のみなさんにも、新型コロナウイルスによって大変な思いをしているたくさんの人たちにも、エールを届けたいと思っています。



中島 智樹 (なかじま ともき)

済生会京都府病院 診療部長・総合診療内科部長・感染制御部部長。日本内科学会認定総合内科専門医、日本消化器病学会認定消化器病専門医、日本肝臓学会認定肝臓専門医。1988年京都府立医科大学卒業、大津市民病院、京都府立与謝の海病院(現 北部医療センター)、京都府立医科大学付属病院の勤務を経て、2006年に済生会京都府病院に着任。2018年より現職。臨床研修プログラム責任者として後輩医師の指導にも尽力する。

こんにちは

リハビリテーション科です。

「最初の一歩」に寄り添います！

リハビリ室は1階エレベーターホールを越えてすぐ左へ曲がったところにあります。理学療法士15名・作業療法士7名・言語聴覚士5名・事務員1名が在籍し、地域リハビリテーション支援センターに指定されています。外来から入院でのリハビリに加え、訪問や介護予防事業もおこなっています。患者さんが自分らしく生活できるように、リハビリテーション科がしっかりサポートしていきます！



理学療法 (PT)

病气やケガをした患者さんに対して、生活に必要な基本動作(起きる・座る・立つ・歩く等)が獲得できるようにサポートします。呼吸器疾患や心疾患などがある患者さんには、運動や生活指導を通じて、日常生活が無理なく行えるようにサポートします。小児患者さんやがん患者さんへのリハビリテーションも積極的に行っています。



作業療法 (OT)

日常生活に必要な応用動作(食事・トイレ・入浴・着替え等)を獲得するために、細かな作業の練習や環境調整をしながら実際の動作訓練を行います。仕事をしている方には復職に向けたサポートを、ご家庭で活躍している方には家事動作のサポートなど、ひとりひとりの患者さんに合わせて、一緒に取り組んでいます。



言語聴覚療法 (ST)

病气や加齢によって飲み込む力が低下している方には、えん下の状態を評価し、訓練します。脳梗塞や認知症などによる日常生活の困りごとに対しては、脳の活性化を促してコミュニケーションが取りやすくなるよう、工夫しながら対応しています。目に見えない様々な障害に対しても、一緒に考えながら寄り添ってサポートします。